

下しても、ACE 値は持続的に高値をしめすものが多かった。

3. ACE 値の正常化した肝炎は、急性のものでも慢性のものでも予後は良好であった。

23. 川鉄病院における尿路感染症分離菌の感受性分布

佐藤重明, 有賀 光, 明星志貴夫
鈴木泰俊, 金井英夫, 末石 真
篠宮正樹, 森崎信尋, 永瀬佳子
(川鉄)

大屋和子, 加藤徳太郎 (同・検査科)

1978.4~1979.3の間、当院で分離された尿路感染由来菌の菌種、感受性分布について報告した。分離菌株は外来320株、入院446株である。菌種は *E. Coli*, *Ps. aeruginosa*, *Klebsiella* などが多いが入院では *Serratia*, *Candida*, プ非発酵性グラム陰性桿菌が増加しつつある。

感受性では *E. Coli* の Pcs の耐性化がめだつが *CEs* 耐性菌は予想より少くない。*Ps. aeruginosa* のアミノグリコシド耐性菌は10%前後である。

24. 妊娠8カ月に発症したクリプトコッカス脳脊髄膜炎の症例

佐藤信一, 尾世川正明 (成田赤十字)

28歳の女性が妊娠8カ月にクリプトコッカス脳脊髄膜炎を発症。髄液の墨汁染色と培養によって確定され、アンホテリシンB 1000mg と5FC 6g/day が投与され、5カ月後に症状が改善した。クリプトコッカス症と妊娠について、妊娠後期に、グルココルチコイドが上昇し、易感染性と症状の潜伏、クリプトコッカスの散布がもたらされるという報告があり、基礎疾患のない本症例にも同様の機序が推察される。